

## 企画展「幕末維新風雲通信 ～将軍家医師・坪井信良より兄佐渡養順への手紙～」出品目録

会期: 2016年2月6日(土)～5月8日(日)

会場: 高岡市立博物館 企画展示室1・3

※佐渡家資料は佐渡 養順(豊)氏所蔵(高岡市寄託)

## I 佐渡家の由緒

通しNo.	佐渡家資料No.	資料名称	年代	点数	寸法 (縦×横, cm)	摘要
1	I-1-1	前田利長書状(脇田九兵衛・大橋左内宛)	年不詳(1609～11年頃)5月9日付	1	33.2×49.1	建部佐渡献上のスズキ10枚に対する礼状
2	I-1-2	前田利長書状(脇田九兵衛・大橋左内宛)	年不詳(1609～11年頃)5月14日付	1	33.5×49.1	医師建部献上のアンズ100個に対する礼状
3	I-1-3	前田利長書状(山田与兵衛宛)	年不詳6月5日付	1	33.3×49.1	井波の医師佐渡献上のアンズ1折168個に対する礼状
4	I-1-4	前田利常書状(宛所不明)	年不詳(1640～58年頃)5月26日付	1	33.4×49.1	帰城につきヤマノイモ1折に対する礼状
5	I-1-5	生駒直勝・尊斎宗伯連署状(竹邊佐渡守宛)	年不詳(1609～14年頃)7月6日付	1	32.0×50.1	御病人へ薬進上方依頼状
6	I-2-1	『建部佐渡守略伝并後胤系譜』	享保6年(1721)4月	1	27.0×21.0	4代養順原著。7代養順発行、聖安寺重擔書
7	I-2-4	先祖二百回忌等諸事控	天保15年(1844)8月13日	1	24.5×18.0	8代養順(千代九郎)が初代200回忌、養父33回忌、養母7回忌を執行した記録
8	I-2-14	「応索書」(8代養順子弟)	嘉永元年(1848)8月1日	1	40.0×52.5	8代養順の子弟の書き上げ。8代養順妻とらの兄で高岡の蘭方医・長崎半健(浩斎)書
9	I-2-6	『佐渡氏元祖道斎先生二百五十年祭ノ奉告文』	明治24年(1891)9月3日	1	28.5×9.0	坪井信良原著・阿波加脩造書。追記の「八世・九世養順略伝」は阿波加脩造書
10	III-1-301	土蔵「中の蔵」棟札	元禄8年(1695)築、文政7年(1824)移築	1	63.4×12.5	2間1尺(約3.8m)×2間5寸(約4.5m)。県内最古級の土蔵
11	III-1-302	土蔵「大の蔵」棟札	文政8年(1825)竣工	1	80.1×17.8	3間(約5.5m)×4間(約7.3m)

## II 「幕末維新風雲通信」

通しNo.	佐渡家資料No.	資料名称	年代	点数	寸法 (縦×横, cm)	摘要
12	I-5-10	坪井信良書簡(9代佐渡養順宛)	嘉永6年(1853)7月3日付	1	16.2×360.6	ペリー来航1ヶ月後、江戸の混乱の様子を伝える。宮地正人『幕末維新風雲通信』(以下『通信』)書簡番号「10」
13	I-5-11	坪井信良書簡(9代佐渡養順宛)	嘉永6年(1853)7月12日付	1	16.1×156.8	異国船騒ぎで江戸より第二人を帰郷させている。『通信』書簡番号「11」
14	I-14-4	「アメリカ蒸気船之図」	江戸末期	1	40.4×31.6	木版刷。信良書簡に記載は無いが、信良が高岡へ贈ったものと思われる
15	I-14-6	「海陸御固御場所附」	江戸末期	1	36.6×48.2	木版刷。江戸湾岸の諸大名の配置図。信良書簡に記載は無いが、信良が高岡へ贈ったものと思われる
16	I-5-25	坪井信良書簡(9代佐渡養順宛)	嘉永7年(1854)4月16日付	1	15.9×149.9	越前藩の奥医師拝命を伝える。藩主・松平春嶽より唐文堆黒筆筒、花鳥文堆黒文鎮、毛筆などを拝領。『通信』書簡番号「25」
17	IV-3-6	唐文堆黒筆筒	江戸後期	1	高15.3×口径13.1	箱蓋に「福井侯所賜」、「安政三年(1856)／佐渡三良珍藏」とあり上記書簡の筆筒を兄に贈ったと思われる
18	IV-3-7	花鳥文堆黒文鎮(一对)	江戸後期	2	(各)長17.5×幅2.5×高1.7	箱蓋に「福井侯所賜於臣信良」、「安政丙辰(1856)七月 佐渡三良珍藏」とある。書簡にある文鎮と思われる
19	IV-3-8	毛筆	江戸後期	2	(長)長30.3×径1.9 (短)長24.9×径1.5	箱蓋に「福井侯所賜於臣信良」、「安政丙辰(1856)七月 佐渡三良珍藏」とある。書簡にある「大筆五本」の内と思われる
20	I-5-48	坪井信良書簡(9代佐渡養順宛)	安政2年(1855)3月10日付	1	16.0×169.6	松平春嶽拝領品。「硝子酒蓋三組一箱并コップ一箇」などを高岡へ贈っている。『通信』書簡番号「48」
21	IV-3-3	三ツ組ガラス酒盃	江戸後期	3	[大]高3.2×口径6.1 [中]高2.6×口径5.3 [小]高2.3×口径4.7	箱蓋表に「硝子杯／三箇」、「安政二年(1855)初夏／坪井信良所贈」とあり、上記書簡の「三組」と思われる
22	IV-3-4	ガラス酒盃	江戸後期	1	高10.2×口径5.2	箱蓋裏に「安政二年(1855)孟夏／坪井信良所贈」とあり、上記書簡の「コップ一箇」と思われる
23	I-5-63	坪井信良書簡(9代佐渡養順宛)	安政2年(1855)10月21日付	1	15.4×46.0	越前(福井県東部)へ1年間勤務命令が出て、困惑している。『通信』書簡番号「63」
24	I-5-66	月不明書簡別紙「亜墨利加国ヨリ指上候書簡和解」	安政4年(1857)	1	16.4×105.4	アメリカ総領事ハリスが仲介した14代大統領ピアースより13代将軍家定宛宛書(信良が翻訳し兄へ送ったものか)。『通信』書簡番号「66」
25	I-14-26	「大江戸焼場方角」	安政5年(1858)11月14日	1	36.7×48.8	木版刷。江戸神田相生町辺より出火し、259町が焼失。信良の石町河岸の家も類焼し、霊岸島の越前藩中屋敷に移転した
26	I-5-100	坪井信良書簡(9代佐渡養順宛)	元治元年(1864)8月3日付	2	15.9×302.9 16.0×111.9	禁門の変、及び第一次長州征伐の詳細を伝えている。『通信』書簡番号「100」
27	I-5-106	坪井信良書簡(9代佐渡養順宛)	元治元年(1864)12月18日付	1	15.9×333.2	幕府奥医師・法眼に任命され、感激しつつも勤務と出費の苦勞などを伝えている。『通信』書簡番号「106」

28	I-5-131	坪井信良書簡(9代佐渡養順宛)	慶応3年(1867)10月23日付	1	15.7×196.5	大政奉還となり、今後戦争となっても心配は無用であると伝えている。『通信』書簡番号「131」
29	I-5-132	坪井信良書簡(9代佐渡養順宛)	慶応3年(1867)11月5日付	2	15.5×61.1 24.0×17.6	京都などで巻き起った「ええじゃないか」の詳細を伝えている。『通信』書簡番号「132」
30	I-5-135	坪井信良書簡(9代佐渡養順宛)	慶応4年(1868)1月17日付	2	24.4×33.5 24.5×33.5	鳥羽・伏見の戦い後、僅かな供と15代將軍慶喜に従い大坂城から軍艦で江戸へ移動。幕府の凋落を嘆く。『通信』書簡番号「135」
31	I-5-138	坪井信良書簡(9代佐渡養順宛)	明治2年(1869)5月10日	2	24.2×35.6 24.2×17.6	駿府(静岡)へ移り静岡病院頭並として医療とその教育に多忙な日々を送る。『通信』書簡番号「138」
32	I-5-147	坪井信良書簡(9代佐渡養順宛)	明治6年(1873)6月28日	1	24.2×32.7	静岡病院が閉鎖され、明治以来初めて東京へ。洋式化され賑わう東京の様子を伝える。『通信』書簡番号「147」

### Ⅲ 佐渡家の医業と文物

通しNo.	佐渡家資料No.	資料名称	年代	点数	寸法(縦×横, cm)	摘要
33	I-2-13	林文書(佐渡龍齋宛)号「龍齋」(曰「蒼龍」)	文政元年(1818)9月	1	28.8×36.0	8代養順(1795～1856)は蘭医。号は龍齋。「養順湯」を開発、財をなした。佐渡家中興の祖
34	I-4-1	往診別録(9代佐渡養順)	弘化3年(1846)～ 文久3年(1863)	1	23.9×17.2	記録の要所を抜き出したものか
35	Ⅲ-2-400	佐渡養順堂製煎じ薬		3		「産前の薬」、「産後の薬」、「ちゝのたる薬」
36	I-4-505～ 507	患者よりの病状書	明治期	5		養順湯を求める際に病状を記している。近県や関東より。中には北海道からのものもある。3件計178通のうち
37	Ⅲ-2-393	佐渡養順堂吊看板		1	64.4×17.5× 1.8	「佐渡養順堂」
38	I-13-31～ 33	佐渡養順堂御薬印版木		3	各7.5×8.0×厚 2.0	「産前の薬」、「産後の薬」、「ちゝのたる薬」。拓本も参考展示
39	I-11-5	良益(信良)の江戸行きにつき贈詩(9代佐渡養順書)	[天保14年(1843)]	1	30.7×45.7	信良が江戸の坪井塾へ入門する際に贈った漢詩
40	I-10-10	異国船渡来につき、冥加銀差上方願書	[嘉永7年(1854)]2月	1	17.5×39.0	9代養順より町肝煎新蔵宛。代々医業を続けてこれたのは御国恩による。この危機に分銀3枚を差し上げて恩に報いたい
41	I-4-4	高岡病院掛副直申付書	[明治4年(1871)]6月	1	16.2×29.0	同院は金沢藩が同年3月、博労町極楽寺内に設置した金沢病院出張所。射水郡内の町医34名が任命されたが、同年7月の廃藩により廃止
42	I-4-23	新川県射水郡医務取締申付書(9代佐渡養順宛)	明治9年(1876)3月12日	1	19.7×26.7	年給15円で任命された
43	I-6-23	坪井信良書「兄弟三人新川県三郡医務取締を奉ずるを祝す」	明治9年(1876)	1	24.0×16.5	長男・9代養順、三男・丸秀秀達、五男・阿波加脩造が新川県(現富山県)各郡医務取締就任に際し、二男・坪井信良が贈った漢詩など
44		坪井信良訳『新薬百品考』	慶応2年(1866)	4	各22.2×15.1	独医アセンブレナー原著。薬品の製法、効能、用法を記す。信良の訳書は他に『カンスタット内科書』48巻、『グロス外科書』22巻など多数ある。高岡市立博物館蔵
45		9代佐渡養順著・坪井信良関『和蘭薬性歌』	慶応2年(1866)	2	各22.8×15.1	薬名を日蘭語で対照させ、薬効を記載。信良は校閲のみならず、出版の費用や方法などこと細かにアドバイスしている。高岡市立博物館蔵
46	I-4-13	『和蘭薬性歌』の解説	明治7年(1874)	1	23.9×35.6	9代が自著の効果を認めたもの
47	I-11-9・10	9代佐渡養順作漢詩書『泊行小詩』・『七尾紀行』	安政3・4年(1856・57)	2	各24.2×18.0	9代養順(三良)は多数の漢詩を詠み、高岡の詩壇を先導した。雅号は葆齋(葆光齋)や山梁・詩痴などがある
48	I-11-93	朋友年齢	嘉永2年(1849)	1	24.1×35.1	漢詩仲間(全て高岡の町医者)9人の氏名、年齢を記す。津島彦逸、山本道齋、松田良順、長崎元周、片山文哲、高峰元桂、土肥俊蔵、沢田龍岱、上原文泊
49	I-12-1・2・ 20・22・23・ 38・41	佐渡家・坪井家の写真	明治期	8		佐渡ら(8代養順妻)、9代養順、同娘3人、9代養順妻、10・11代養順、坪井信良家族(『幕末維新風雲通信』坪井家蔵写真より)、坪井正五郎、同家族
50	I-12-42	阿波加脩造肖像写真	明治2年(1869)	1	8.0×11.0	脩造(1836～1916)は8代養順5男。『哥路里贅語』を著す。貧者には無料で治療した。教育に尽力衆院議員にもなる
51	IV-2-10	大槻磐溪書「ナポレオン1世詩」	江戸後期	1	169.4×92.5	磐溪(1801～78)は江戸の儒者、砲術家。仙台藩医・玄沢の二男。同藩侍講。著『孟子約解』など
52	IV-2-11	桂川甫周書「五行書」(欧陽脩「試筆」)	文化5年(1808)	1	124.3×33.0	甫周(1751～1809)は蘭医。桂川家4代目。名は国瑞。号は月池。杉田玄白らと『解体新書』を翻訳。編著『魯西亜志』、『北槎聞略』など
53	IV-2-8	小石元瑞書「医箴書」	天保12年(1841)	1	141.4×47.4	9代養順宛。元瑞(1784～1849)は京都の蘭医。家塾「究理堂」で9代養順、信良ら兄弟が学んだ
54	IV-2-24	坪井信道書「熱海客舎作七絶」	弘化4年(1847)	1	110.2×55.2	信道(1795～1848)は江戸の蘭医。美濃生まれ。萩藩の侍医。門下に緒方洪庵・川本幸民らがいる。著『診候大概』など。信良を養子とした
55	IV-3-2	ガラス酒盃	江戸後期	1	径5.4×高10.2	箱蓋に「誠軒先生遺愛」、「嘉永二年(1849)初夏／坪井信良所贈」。誠軒は坪井信道の号
56	I-10-1	上銀御願書付写	文政9年(1826)6月	1	24.4×18.0	藩への上納(調達)銀の割付。計7,000貫目の内金沢1,580貫目、高岡550貫目。高岡町人の割付や免除願いなどの控え。縦帳(9丁)
57	I-10-22	手合町々風俗之義につき申談事書	年末詳(江戸末期)午5月	1	24.0×17.8	高岡町肝煎から町民への通達。孝行奨励、碁・将棋平日禁止、仏事の太鼓・鐘の大音量禁止、教育奨励、盗難・遅刻の注意等。
58	I-10-54	「高岡市商業家一覧表」	明治29年(1896)1月25日	1	57.1×46.5	最上段(左)に「産科医 佐渡養順」。木版刷りの見立番付。高岡市旧旅屋門前・森田吟蔵発行

計 58件86点

※資料保存のため会期中展示替えをすることがあります。